

指導資料

鹿児島県総合教育センター

国語 第121号

— 小学校，特別支援学校対象 —
平成23年10月発行

「基礎・基本」定着度調査の結果を踏まえた 小学校国語科の学習指導法の改善

本県では、小・中学生が基礎学力（社会生活を営む上で最低限必要な知識や技能等）を、確実に身に付けているかどうか調べるために、平成16年度から「基礎・基本」定着度調査を実施している。

そこで本稿では、本調査結果から見える小学校国語科に関する課題を改めて確認し、学習指導法改善の方向性について述べる。

1 「基礎・基本」定着度調査結果から見える小学校国語科に関する課題

次の表は、各年度で最も平均通過率の低かった内容・領域及び観点を示したものである。平成20年度からの3年間は、特に、このような基礎的・基本的な知識・技能を活用する国語の能力に課題があることが分かる。

表【課題のある内容・領域，観点の変遷】

【内容・領域】			
年度	小5	中1	中2
16	文学的文章	発想や認識・推敲	文学的な文章
17	構成・表現	文法・語句	記述・推敲
18	説明的文章	説明的文章	文学的文章
19	文法・語句	文学的文章	説明的文章
20	構成力・効果的な表現	説明的文章	漢字（読み・書き）
21	構成力・効果的な表現	説明的文章	説明的文章
22	構成力・効果的な表現	記述・推敲	記述・推敲

【観点】

年度	小5	中1	中2
16	読む	書く	書く
17	書く	書く	書く
18	読む	書く	書く
19	読む	読む	書く
20	書く	読む	言語事項
21	書く	読む	書く
22	書く	書く	書く

県教育委員会義務教育課作成の資料『「基礎・基本」定着度調査結果（概要）』では、『活用』に関する記述式の設定を解くために求められる能力」として、課題となる能力を、次のように具体的に示している。

H20 グラフに適合した会話になるよう、書き換える能力

H21 話し合い活動の様子を読み、話し合いの柱となる内容を記録・メモする形式の問題を通して、話し合い活動の要点をとらえる能力

司会者としての適切な発言内容を記述する能力

H22 司会者の指示に対する発言内容が適切であるかどうかを判断し、その理由を記述する能力

提示されたグラフから分かる内容を、条件にしたがって記述する能力

2 問題解決のために必要となる思考・判断・表現 一問題例から一

『活用』に関する記述式の設問を解くために求められる能力」は、具体的にどのような思考・判断・表現をすることによって発揮され、問題解決へと至るのであるか。このことを、平成 22 年度の問題を例に考えてみたい。

平成 22 年度問題 7-1

【資料㉔】ペットボトルとリターナブルびんの使用本数

年	リターナブルびん (億本)	ペットボトル (億本)
1991	69	21
1993	61	24
1995	56	29
1997	42	42

※ リターナブルびん…あらうと、くり返し使うことのできるびん

司会 ①資料㉔のグラフから、分かることを発表してください。

大木 リターナブルびんの本数は、年々へってきているね。

丸山 のほうが重いから、ペットボトルのほう使いやすいな。

竹中 ペットボトルの本数はどんどん増えているわ。

小川 一九九五年から一九九七年までのペットボトルの増え方が大きいわ。

【問題】

司会者の「①資料㉔のグラフから、分かることを発表してください。」の指示に対して、正しく答えていないと思う人を、話し合いの□の中から一人選び、また、その理由を書きましょう。

【解答例】

名前 丸山

理由 資料㉔のグラフからは、本数は分かるが、重さについては分からないから。

この問題では、司会者の指示に対する発言内容が適切であるかどうかを判断し、その理由を記述する能力を必要としている。

具体的には、司会者の指示とグラフの表題及び数値の単位に着目し、両者を結びつけて考えることによって、『グラフから分かること』は、『本数』である。」という解決の方向性を定め、その方向性にそぐわない発表を選択できれば、適切に解答することができる。

このことから、このような、グラフの示す内容をとらえる問題の解決に当たっては、グラフが何を表しているのかを判断するために、どこに着目すればよいのかを理解させる指導が必要であることが分かる。

また、発言内容が適切であるかどうかを判断した理由を書くためには、この問題の場合、『分かること』を『正しく答えていない』つまり、『分かること』を『誤って答えている』か、『分からないこと』を『答えている』かのいずれであるかを、発表とグラフの数値とを対比させることによって判断し、理由を示す「～から。」の文末表現を用いて表現する必要がある。

平成 22 年度問題 7-2

【資料㉕】平成19年度ペットボトルの生産量と回収量

項目	量 (百万トン)
生産量	57.3
回収量	39.6

※ 回収量はリサイクル

(平成19年度環境省)

司会 なぜ、ペットボトルがだんだん多く使われるようになったのでしょうか。思ったことや考えたことを発表してください。

大木 びんは割れるけど、ペットボトルは、割れないよ。だから、取りあつかいやすいからではないかな。

丸山 それにペットボトルは、びんより軽いから、持ち運びするときに便利だからね。

小川 でも、②ペットボトルにも問題点はあるわよ。このグラフ(資料㉕)を見て。

【問題】

小川さんが資料㉕を使って、伝えようとし

ている「②ペットボトルにも、問題点はあるわよ。」とは、どのようなことですか。次の条件にしたがって書きましょう。

〈条件〉

- ① 内容を二つの文に分け、第一文には資料①から分かることを、第二文には、そのことから考えられる問題点を書きましょう。
- ② 50字以上、80字以内で書きましょう。

【解答例】

生産量に対して回収量が約17万トンも低いということが分かる。したがって、その分資源を無駄にしており、再利用できるというよさを生かせていないと考えられる。(75字)

この問題では、提示されたグラフから分かる内容が何であるかを思考・判断し、条件にしたがって記述する能力を必要としている。

具体的には、条件①により、第一文では、生産量に対して回収量が少ないという判断に基づき、グラフに示されている数値を用いて書くとともに、文末を「～が分かる。」と表現する必要がある。

第二文では、「生産量」と「回収量」という語句の意味を理解した上で、両者の関係（生産したペットボトルを回収・再生することがリサイクルであり、生産量と回収量との差が小さいほどリサイクル率が高い）から、リサイクルが不十分であるという問題点を考え、指摘する文章を書く必要がある。また、問題文の指示に対応するため、文末は「～と考えられる。」「～という問題点がある。」などの表現が望ましい。

さらに、条件②により、決められた字数の範囲内で簡潔に書く必要がある。

3 基礎的・基本的な知識・技能を活用する 国語の能力を育成する指導法改善の方向性

二つの問題を例として、国語の問題を解決するために必要となる思考・判断・表現の過程を述べたが、このような分析を、授業に向けた教材研究においても行うことが、指導法改善に有効であると考えられる。例えば、前述の問題⑦-1のように、資料の示す内容をとらえて書く場合、どこに着目すればよいか、自分の考えをどう書けば相手に正確に伝えることができるかなど、可能な限り想定する。それを子どもの実態に応じて精選し、授業に臨むのである。

つまり、問題を解決するために、どのような思考・判断・表現が可能かという視点で教材分析を行えば、指導のポイントを明確にできるということである。さらに、このことは、授業において調査問題を直接活用することもできるということである。

4 基礎的・基本的な知識・技能を活用する 国語の能力を育成する授業の例

次に示すのは、5年生の教科書（光村図書）に掲載されている、図表を引用して文章を書く活動を設定した単元についての指導計画例である。（東京書籍では、6年生の教科書に、「資料を活用して書こう」という類似の単元が掲載されている。）

ここでは、1時間目に過去の「基礎・基本」定着度調査の問題に取り組みせ、学習の具体的なポイントをとらえさせている。また、5時間目で「鹿児島島チャレンジ」を活用することで、確かな定着を図っている。

- (1) 単元名「理由付けを明確にして説明しよう」
 (教材名「グラフや表を引用して書こう」)(光村5年) 全5時間
- (2) 単元の目標
- ア 進んで資料を収集・整理するとともに効果的に引用し、「くらし」についての自分の意見を適切に伝えようとすることができる。
 (国語への関心・意欲・態度)
- イ 図表やグラフを引用し、書き方を工夫して、自分の考えが伝わるように書くことができる。
 (書く能力)
- ウ 図表やグラフを引用して文章を書く際の文章の構成について理解することができる。
 (言語についての知識・理解・技能)
- (3) 指導計画

時	主な学習活動	指導上の留意点
1	1 グラフ「家庭からのごみ排出量」をもとに、「くらし」についての意見文の書き方を理解する。 (1) 文章の構成について (2) グラフや表の説明について 【何を表しているか】 ・ 表題をどのように文章に表すか 【どのように示しているか】 ・ 示しているデータの概要をどのように文章に表すか 【注目する言葉や数字は何か】 ・ 注目すべきデータをどのように文章に表すか。 ・ データの意味することをどのように文章に表すか。 (3) 意見の述べ方について	○ 図表を引用して書く際に必要なポイントを確認させるために、過去に実施した「基礎・基本」定着度調査の問題に取り組ませる。 ○ グラフや表を説明する際に必要な内容と、それをどのように文章に表せばよいのかを理解させるために、グラフだけを見て気が付くことを書かせ、教材文と照応させる。 ○ 意見を明確に述べるための方法について理解させるために、教材文の「はじめ」と「おわり」の文章における共通点と相違点を対比させ、効果的な接続語や文末表現の使い方に気付かせる。
2	2 「くらしやすさ」「くらしにくさ」について、自分の考えを思いつくまま付せん紙に書き、テーマを挙げる。 3 テーマに沿った統計を探し、文章を書くためのテーマと統計資料を決める。	○ 書いてみたいテーマを設定できるようにするために、「くらしやすさ」「くらしにくさ」から連想される日常生活における「もの」や「こと」についてKJ法を活用し、互いに交流させる。
3 4	4 「くらし」についての文章を、統計の内容に基づき300字～400字程度で書く。	○ 資料を引用する際の文章構成や、述べ方について確認しながら記述させる。
5	5 書いた文章を互いに読み合い、統計と対応させた表現の仕方に着目し、適切な助言をし合う。 6 「鹿児島チャレンジ」で、表現の仕方を振り返る。	○ 統計の表題と示された数値を対応させるなど、読み手に考えを分かりやすく伝える文章になっているか着目させる。 ○ チャレンジ問題編！「いろいろな様式の文章の書き方」を活用し、取り組ませる。

「基礎・基本」定着度調査を用いて、指導のポイントを明確にし、調査問題を指導計画に位置付けて授業を行うなどの活用を図ることは、学習指導法の改善に向けて、非常に有効であると考えます。県教育委員会義務教育

課作成の「鹿児島チャレンジ」ともあわせて、ぜひ活用していただきたい。

—参考文献—

- 『小学校国語学習指導要領解説 国語編』平成20年
 文部科学省

(教科教育研修課)